

教員向け「探究を育むカリキュラムと指導の方策」研修会について

令和6年11月25日（月）

11月25日（月）に、本校の職員に向けて教育福祉学部教育発達学科准教授の大貫守（おおぬきまもる）先生による研修「探究を育むカリキュラムと指導の方策」が開催されました。当日は、本校の県民の日ホリデー当日にも関わらず、探究的な学びの進め方に興味関心がある先生が、参加されました。



まず講師の大貫先生の指示のもと、4人1組のグループを作って研修会はスタートしました。

研修会における最初の問いは「高校生が探究をするために教員が指導することが必要な事柄は何か？子供たちが獲得している必要があるものは何か？」でした。



続いて「普段使っている50円玉のデザインを描いてください。」や「郵便のマークは上が長いかわが長いかわ、それとも同じか？」という多くの人が「知っているつもり」になっていることが問われました。どちら

の問いにも参加者は、自分の記憶をたどりながら回答しました。私たちの日常生活は問題解決の連続だが、あいまいな理解でも普段の生活なら問題解決に困る



ことなく大丈夫だが、探究を阻むのはまさにこの「知っているつもり」であるという指摘がありました。

また、「問いを見つける力は存在するか？」という問いも示されました。普段よく見る「間違い探し」のクイズについて、正しい図柄を知っているから間違いを見つけられるのであって、この間違いを見つける力は教科における「概念」の深い理解のことである。この前提となる知識があるこ

とで「違和感=矛盾」に気づくことができ、探究的な学びを深める手掛かりになるというご指摘をいただきました。このような指摘から「知っているつもり」を問い直す経験が得られる仕組み作りをすることが、教師の役目であると感じました。

今回の研修で、探究的な学びについて整理できた先生が多かったと感じました。さらに大貫先生から「今回は教科指導を中心に説明した。次回は、別の角度から説明したい。」と仰っていただきました。今後も継続的にご指導いただけることで、津島高校の探究的な学びを導いていただけるのは大変ありがたいことだと感じました。

これからも津島高校は継続して探究的な学びの充実、そして中高一貫6年間の学びで「チェンジ・メーカー」の育成に取り組んでまいります。ご期待ください。

教頭 金澤 学

なお、この研修を開催するにあたり愛知県立大学外国語学部教授 池田周先生に多大なるお力添えをいただいたことを申し添えます。